

報告第 9 号

令和 4 年度 教育委員会活動の点検・評価報告書について

このことについて、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条の規定により、教育委員会はその権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行ったので、その結果を議会に報告する。

令和 5 年 9 月 5 日 提 出

知名町教育委員会教育長 田中 幸太郎

令和4年度  
教育委員会活動の点検・評価報告書

知名町教育委員会  
令和5年9月

# I 点検・評価の概要

## 1. はじめに

平成 19 年 6 月の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、すべての教育委員会が「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価」を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に報告するとともに、地域住民に対して公表するように義務づけられた。また、その実施にあたっては、学識経験者の知見を活用するよう義務づけられている。

## 2. 点検評価の実施について

この点検評価は、教育委員会の会議による審議状況や教育委員による調査活動と、教育委員会の事務事業の執行状況について、実績や成果と課題を記述し、次に示す 4 区分により達成度の評価を行った。

点 数	内 容
4	順調に達成しているもの
3	おおむね順調に達成しているもの
2	達成見込みがあるが課題があるもの
1	順調でないもの

## 3. 知名町教育委員会の取組方針

今回で 15 回目となり、前回と同様に評価項目を 4 段階での数値評価とした。前回は教育委員会関係と学校教育関係、学校給食センター関係の 3 項目とし、今回の評価項目は、社会教育関係と公民館・図書館関係について、教育長及び教育委員 4 名による自己点検、自己評価を実施し、評価委員の評価及び意見をいただき集約したものを本報告書にまとめ、令和 5 年 9 月の第 3 回議会定例会で報告することとした。

(1) 社会教育関係では、評価項目を「(1) 社会教育指導体制の充実」「(2) 家庭教育の支援・充実」「(3) 青少年教育の充実」「(4) 文化芸術活動の促進」「(5) あしびの郷・ちなほの活用」「(6) 文化財の保存活用」「(7) スポーツ・レクリエーションの推進」の7項目について、点検評価を行った。

生涯学習課の年間の行事、各種協議会開催内容、文化活動、文化財の活用、スポーツ大会開催状況やそれらの資料、課長の説明質疑をもとに、4段階の数値による評価と記述による意見をまとめた。

(2) 公民館関係では、評価項目を「(1) 公民館講座の充実」「(2) 自治公民館長研修会の充実」「(3) 短歌コンクールの実施」「(4) 町民作品展示会の開催」「(5) コミュニティづくり推進協議会の開催」「(6) 成人式の開催」「(7) 弓削政己寄贈文献史料の整理」「(8) 町誌編さん事業の推進」「(9) 施設整備」の9項目について点検評価を行った。

中央公民館の年間を通した講座や教室など、各種事業の開催状況やそれらの資料、館長の説明質疑をもとに、同様の数値による評価と記述による意見をまとめた。

(3) 図書館関係では、評価項目を「(1) 図書館運営の充実」「(2) 移動図書館車(えらぶっくカー)の活用」「(3) 図書館まつりの充実」「(4) ブックスタートの充実」「(5) おはなしの時間の充実」の5項目について点検評価を行った。

令和4年度に導入した移動図書館車の運用をはじめ、年間を通した各種事業の開催状況について、館長の説明質疑をもとに、同様の数値による評価と記述による意見をまとめた。

#### 教育行政評価委員

役 職 等	氏 名
元 教 員	沖 野 富 秀
元 町 職 員	栗 尾 廣 美

## Ⅱ 点検・評価結果

### 1 社会教育関係

評価項目	評価の観点	評価
(1) 社会教育指導体制の充実	社会教育指導体制の充実を図り、町民の多様なニーズに応じて、学習機会の拡充と学習の気運づくりに努めているか。	3.3
	(反省・意見)	
	社会教育法に基づき、社会教育委員会を開催し、社会教育に関する諸立案や意見交換を行った。	
(2) 家庭教育の支援・充実	町民の意見を取り入れ、各種イベントに工夫を凝らし、学習機会の充実と、気運の醸成に努めた。	3.3
	(反省・意見)	
	家庭教育学級：町内小中学校にて40講座実施し、延べ1,248人が参加した。	
(3) 青少年教育の充実	家庭・学校・地域・企業等が連携して家庭教育を支援し、家庭教育力の向上に努めるとともに、家庭教育支援員を4名配置し、県主催の研修へ参加させ、支援員の資質向上に繋げた。	3.5
	家庭や地域の教育機能の活性化を図り、実践活動を通して、豊かな心をもった青少年の育成と自主活動ができる青少年団体の育成が図られているか。	
	(反省・意見)	
	知名町青少年育成連絡協議会（年5回）を開催し、地域子ども会活動の活性化を図った。また、4年度は大島地区子ども会大会も開催し、多くの親子連れに参加いただいた。	
	青少年にふるさとのよさを再発見させ、地域ぐるみで青少年を育てる気風づくりを促進するため、青少年ふるさと美化活動・おはよう読書会・郷土に学び・育む運動を実施した。	
	地域で主体的に取り組むジュニアリーダーを育成するため、中学生1名を、大島地区ジュニア・リーダー研修会に参加させた。	
	心身ともに健康な青少年の育成を図ることを目的として、知名町の児童生徒の優れた個性を発見し、知名の子表彰として28名を表彰した。	
～学ぼう郷土の自然「移動博物館がやってきたin知名町」～を誘致し、町内の小中学生に鑑賞・体験させることができた。		
科学の楽しさやおもしろさを体験するための「科学の祭典」を実施し、11ブース出展のもと、約110名が参加した。		

<p>(4) 文化芸術活動の促進</p>	<p>町民の多様な文化芸術活動を支援するとともに、文化芸術団体及び知名町の文化を担う青少年の育成強化が図れているか。</p> <p>(反省・意見)</p> <p>文化協会の活動を活発化させた。  ・青年部主催「五月の祭典」 ・ふるさと夏まつり本祭出演  ・奄美パーク開園20周年記念事業（瀬利覚獅子舞、芭蕉布工房）  ・県民文化フェスタinあまみ（正名ヤッコ踊り）  ・子ども芸能祭 ・沖永良部音楽コンクール開催  ・島唄・島ムニ大会開催（13組）</p> <p>生涯学習活動の発表の場として生涯学習フェスティバルは規模縮小しての開催となったが、文化協会加盟団体及び公民館講座生による舞台発表・作品展示を行った。</p> <p>青少年の演奏技術の向上と発表の機会として、第39回沖永良部音楽コンクールを開催した。近年参加者が減少傾向にある為、開催が危ぶまれたが、参加総数48名で開催することができた。今後も継続していけるよう努力していく。  （合計32組・48名出場）うちピアノ部門26名</p> <p>文化庁と共催による「危機的な状況にある言語・方言サミットin沖永良部」を開催し、島内外から多数の出演者や観客が来場し、北海道から与那国までの9つの言語・方言の状況や地域の取組状況の報告・協議などを通して、方言の役割や価値を認識することができた。</p>	<p>3.7</p>
<p>(5) あしびの郷・ちなの活用</p>	<p>あしびの郷・ちなの効率的な運用と自主文化事業による住民参加型事業・鑑賞事業等の拡充が図られているか。</p> <p>(反省・意見)</p> <p>令和4年度の文化ホールの利用状況は、  利用日数：226日 利用件数：207件 稼働率：76%  年間利用者数：14,002人  とコロナ禍前を凌ぐ結果となった。</p> <p>・映面上映・・・中止  ・弦楽アンサンブルコンサート・・・中止  ・佐々木駿×大井健みんなで楽しむクラシックコンサート  ・南西航空音楽隊ファミリーコンサート</p> <p>開館から20年以上が経過し、舞台機構等においては更新時期にきており、令和2年度から年次的に計画を立て修繕・更新を行っている。令和4年度 修繕・更新費用 16,356千円</p> <p>新型コロナウイルスの影響により、ホールが遠くなった方々や、島外の出身者へ情報発信するために、動画配信機器を整備し、YouTube配信を可能にした。これにより、全国どこからでも無料で、あしびの郷・ちなで開催される自主文化事業が鑑賞できるようになった。あしびから全国へ元気を発信している。</p>	<p>3.2</p>
<p>(6) 文化財の保存活用</p>	<p>歴史的な文化遺産や伝統芸能、埋蔵文化財の調査・保存・啓発活動は推進されているか。</p> <p>(反省・意見)</p>	

	<p>文化財保護審議委員と協力し、文化財防火訓練を実施し、文化財保護意識の醸成に努めた。また、住吉高倉保存会との協力で、九本柱の高倉の茅葺屋根の葺き替え工事を行い、葺き替えの工程は全て動画に記録・保存した。</p> <p>上平川大蛇踊り保存会と協力して、大蛇の頭部から胴体まで全てを作り替えた。完成後は、殿内神社の例祭で広く集落内外に披露され、保存会ははじめ上平川字が沸いた。なお、大蛇製作工程については、映像記録で保存した。</p> <p>第3回知名町の古墓調査検討委員会を開催し、古墓の各部位の名称統一、沖永良部島のトゥール墓の定義、古墓の名称について協議した。 屋子母セージマ古墳跡周辺地形の測量図を作成した。</p>	3.6
(7) スポーツ・レクリエーションの推進	<p>町民のニーズに対応したスポーツイベントを開催し、町民参加型の拡充に努めているか。また、スポーツや健康づくりに関する情報を提供し、生涯スポーツの普及に努めているか。</p> <p>(反省・意見)</p> <p><b>【体育協会】</b> 大島地区大会は本町で軟式野球競技を開催、知名町は3位。奄美群島本土復帰記念大島地区駅伝は男子8位、女子5位。町内一周駅伝競走大会は西目チームが5連覇、余多が躍進賞。島内一周駅伝競走大会（知名町主管）は消防署が初優勝。町民体育大会は中止。</p> <p><b>【スポーツ少年団】</b> 町内大会は、バレー、バスケット、サッカー競技を開催。大島地区スポーツ少年団競技別交歓大会は軟式野球競技で知名町がブロック優勝。</p> <p><b>【E LOVE】</b> 令和4年度より社会体育施設（町民体育館、総合グラウンド）の管理に指定管理者制度を導入し、NPO法人沖永良部スポーツクラブE LOVEに委託した。</p> <p><b>【補助事業】</b> スポーツ庁の補助事業「幼児期からの運動習慣形成プロジェクト」を活用し、バルシューレ（ボール遊び）を利用した運動遊びの楽しさを教えた。また、指導者対象の講習会を開催した。</p>	3.5

## 2 公民館関係

評価項目	評価の観点	評価
(1) 公民館講座の充実	<p>公民館は、町民が生涯を通して学習の機会が得られるように配慮しつつ、町民のニーズに対応するべく多様な講座、教育等を提供しているか。また、学習意欲を高め、自主的、主体的な学習活動の支援・充実が図られたか。</p> <p>(反省・意見)</p> <p>白百合大学1教室・受講生26人、中央公民館講座13教室・受講生170人、地区公民館等講座2教室・受講生26人 短期講座(児童水泳)1教室・受講生29人、自主講座3教室・受講生25人 合計276人。(前年比△100人) 講師の高齢化による閉級がみられ、講師の確保と後継者育成が課題である。 「歌って♪若返り」「健康ヨーガ」「絵画教室」などの講座が好評だった。「しまむに・ことばサロン」も定着した。</p>	3.3
(2) 自治公民館長研修会の充実	<p>事例発表を交えた自治公民館長(区長)研修会を開催して、集落がかかえている問題等について、共通認識を持ち課題解決の検討を図っているか。</p> <p>(反省・意見)</p> <p>自治公民館長研修会は都合により開催できなかった。</p>	2.9
(3) 短歌コンクールの実施	<p>短歌に親しむ機会をとおして、町民の言葉に対する表現力を育み、情操教育による感性豊かな人づくり、まちづくりに資することを目的に、短歌コンクールを開催しているか。</p> <p>(反省・意見)</p> <p>応募作品数752首(小学生の部232首、中学生の部181首、高校生の部285首、一般の部54首)、応募者総数428人。それぞれの部で短歌大賞・優秀賞・入選を選出し、生涯学習フェスティバルで表彰及び展示をしている。 前年から187首減少している。また、一般の部の応募が少ない。</p>	3.4
(4) 町民作品展示会の開催	<p>「教育・文化の町」宣言の施策の一環として、中央公民館に町民作品展示ギャラリーを設置しているか。</p> <p>(反省・意見)</p> <p>資料室横の展示台に竹細工製品の展示、図書館事業の活動風景や写真等を展示している。 生涯学習フェスティバルでの展示のみでなく公民館での展示(展示期間の配分等を考えて)ができればと思う。</p>	3.1
(5) コミュニティづくり推進協議会の開催	<p>明るく住みよい町づくりを目指して、コミュニティづくり推進協議会申合せ事項を設定し、実践に努めているか。</p> <p>(反省・意見)</p> <p>令和4年度の重点実践事項を「ふるさと美化運動の推進」と定め、花いっぱい運動の推進と、きゅら島づくりのため、ゴミの減量化・資源化に取り組んだ。</p>	3.2
(6) 成人式の開催	<p>本町の未来を担う新成人者を祝い励ますため、思い出深い式典となるよう成人式を開催しているか。</p> <p>(反省・意見)</p>	



	<p>民法改正により令和4年4月1日より、成人年齢が18歳に引き下げられたことを受け、名称を変更し、令和5年1月2日に「二十歳のつどい」として開催。対象者67名のうち51名が参加した。</p> <p>新たに二十歳を迎える参加者が実行委員会を組織して式を開催しているため、今後もこの流れを維持したい。</p>	3.5
(7) 弓削政己寄贈文献史料の整理	<p>弓削政己氏から寄贈された貴重な文献史料は、多くの研究機関、研究者が利用を望んでいるが、膨大な史料の整理・分類事業は推進されているか。</p> <p>(反省・意見)</p>	2.4
	<p>180箱、約一万点の文献史料の寄贈があり、文献用と史料用の二室を空調完備で部屋で保管している。令和4年度は東大史料編纂所、鹿児島大学近現代教育研究センター、神奈川大学、沖縄県文化財課の研究者の調査を受け入れた。</p> <p>しかし、弓削政己文献史料の整理は、進捗を図れなかった。</p>	
(8) 町誌編さん事業の推進	<p>昭和57年刊行から約40年が経過した知名町誌。令和8年の町政施行80周年に町誌第二版の刊行をすべく、町誌編さん事業の推進は図れたか。</p> <p>(反省・意見)</p>	3.1
	<p>令和4年度に町誌編さん準備室を設け、町誌編さん検討委員会を立ち上げた。令和5年3月、基本方針や内容について検討結果を町長に答申した。</p>	
(9) 施設整備	<p>中央公民館は経年劣化が進んでいる。計画的な維持補修を行っているか。</p> <p>(反省・意見)</p>	2.7
	<p>トイレ回りの排水と冷水器の補修を行った。</p> <p>2階パソコン室を町誌編さん室として使用できるように、天井、壁、床面の改修工事を行った。建築59年となる中央公民館は老朽化しており、新庁舎建設に伴い公民館機能を移転することを検討する必要がある。</p>	

### 3 図書館関係

評価項目	評価の観点	評価
(1) 図書館運営の充実	<p>生涯学習を推進する社会教育施設として、多様化・高度化する住民の学習要求に適切に応えるため、必要とされる資料や情報を収集・提供するとともに、住民の日常の暮らしに役立つ「暮らしの中の図書館」を目指すため、読書活動の推進、住民の暮らしの向上と地域の振興、生涯学習のまちづくりの推進が図られているか。</p> <p>(反省・意見)</p> <p>運営体制：館長代理 1 名、司書 2 名、臨時職員 4 名 移動図書館車 1 台 休館日：月曜日、祝日、月末資料整理日、年末年始、特別資料整理期間 開館時間：4月～9月 午前10時～午後6時30分 10月～3月 午前9時30分～午後6時 資料費：203万円（図書費153万円、雑誌、新聞、ビデオ47万円） 蔵書数：56,968冊（うち児童蔵書 21,253冊） 町民一人当たり蔵書数 9冊 リクエスト受付 84件本の貸出冊数は、49,693冊</p> <p>本の貸出冊数は、49,693冊、住民一人当たりの貸出数は9冊で前回より19%の上昇がみられた。町内に書店が無いので、図書館は住民のニーズにあった選書が求められる。前回に比べて貸出冊数が増えているのは、移動図書館車（えらぶっくカー）運行の成果と考えられる。常連の利用者だけではなく、図書館を利用しない住民へのアプローチを講じ、継続して図書館利用者の増加を図る。</p>	3.7
(2) 移動図書館車の活用	<p>移動図書館車（えらぶっくカー）の運行により、図書貸出数の向上は図られているか。</p> <p>(反省・意見)</p> <p>令和4年4月から運行を開始した移動図書館車は、長期休みを除き、各小・中学校（7校）へ月2回昼休みに運行。また、一時預かり所そら・SORA、生涯学習フェスティバルでも運行を実施。小学生には好評を得ているが、中学生の利用が少ないので、選書等工夫をしていく必要がある。 利用者 2,020人 貸出冊数 4,899冊 また、こども園にも運行して欲しいとの要望があるので、前向きに検討していく。</p>	3.7
(3) 図書館まっりの充実	<p>大型イベントを通して、より多くの方に図書館を利用してもらい、読書への興味を持ってもらうよう図られているか。</p> <p>(反省・意見)</p> <p>年1回、12月に開催。午前は「クリスマスお話し会・ビンゴ大会」を開催したが、お話し会の参加者はおらず、ビンゴ大会に1家族が参加。午後は工作を実施。総参加者 46名。 町内各所でのイベントと重なったため、午前の部のお話し会への参加者がおらず、ビンゴ大会に1家族のみ参加してくれた。別のイベントと重なってしまった場合など、対策を考える必要があった。</p>	2.8
(4) ブックスタートの充実	<p>生後6か月の赤ちゃんと保護者に絵本を開く楽しい体験といっしょに絵本を手渡し、心ふれあうひと時を持つきっかけをつくる活動ができたか。</p>	

	<p>(反省・意見)</p> <p>年5回図書館にて6ヶ月の幼児を対象に、オススメ絵本2冊、県立図書館絵本ガイド等が入った「ブックスタートパック」を配布し、読み聞かせ方法の指導、指遊び、ベビーマッサージを行い、保護者同士の交流の場にもなり、参加者からは好評。「ブックスタートパック」を全対象者へ配布できていないため、配布方法の検討が必要。参加者数も少ないため、実施場所など改善が必要。参加者17名、後日受取6名に配布。</p>	2.9
<p>(5) おはなしの時間の充実</p>	<p>読み聞かせを通して読書への興味を持ってもらい、工作により脳の発達を促すことを目的とした活動ができたか。</p> <p>(反省・意見)</p> <p>月2回開催。木曜日は一時預かり所そら・SORA、土曜日は図書館で開催し、絵本・紙芝居・パネルシアターかペープサート・工作を実施している。そら・SORAで開催できるようになったため、木曜日の参加人数の確保はできたが、図書館で開催する時は参加者が少ない。広報方法の工夫が必要。参加者 94名。</p>	2.9

### Ⅲ 教育行政評価委員意見のまとめ

#### 1 社会教育関係について

##### (1) 社会教育指導体制の充実

社会教育委員会を開催し、社会教育に関する諸事業に取り組まれているが、事業終了後に社会教育委員会で振り返りを行い、評価・反省を次年度の計画に反映されるような体制にして欲しい。

また、社会教育委員のスキルアップのため、各種研修等に積極的に参加させて欲しい。

##### (2) 家庭教育の支援・充実

家庭教育の支援の輪を拓げるため、家庭教育支援員を4名配置し、研修への参加による資質の向上が推進されている。また、家庭教育学級を町内小中学校で40講座実施、延べ1,248人が参加するなど、今後も継続した支援・充実を図って欲しい。

##### (3) 青少年教育の充実

青少年育成連絡協議会を開催、青少年ふるさと美化活動、おはよう読書会、郷土に学び・育む運動の実践、県ジュニアリーダー交流会への参加等、本町の青少年が自分たちのふるさとに誇りを持ち、豊かな心を育みつつ、将来の地域のリーダーとして育っていくために、様々な機会を通して学びの場を提供することはとても大切なことである。今後もそれぞれの分野において成果を上げられるように取り組んで欲しい。

平成27年度から開催している科学の祭典は、新型コロナの影響があるなかでも、約110名が参加しており、多くの子どもたちが科学の分野に興味を持っていることが伺える。また、～学ぼう郷土の自然「移動博物館がやってきた in 知名町」～を誘致し、町内の小中学生に鑑賞・体験させることで、子どもたちが自然に触れ、知的好奇心を向上させる上でもとても有意義である。

「知名の子表彰」は、優れた個性を持ち、がんばっている子どもを表彰し、子ども達の励みとなり成長へと繋げることを目的としているが、今後も継続していくことを期待したい。

##### (4) 文化芸術活動の促進

新型コロナウイルス感染症の影響により、一部中止となった事業もあるが、五月の祭典、奄美パークへの瀬利覚獅子舞と芭蕉布工房の派遣、県民文化フェスタへの正名ヤッコの派遣、生涯学習フェスティバル、沖永良部音楽コンクールの開催など、芸術文化活動の継続に努めたことは素晴らしいことである。

「危機的な状況にある言語・方言サミット」を誘致し、北海道から沖縄までの9つの言語・方言の聞き比べや、地域の取組状況の報告・協議できたことは有意義で

ある。

#### (5) あしびの郷・ちなの活用

文化ホール利用日数：226日 利用件数：207件 稼働率：76% 年間利用者数：14,002人とコロナ禍前を凌ぐ結果であった。自主文化事業として、クラシックコンサートや南西航空音楽隊ファミリーコンサートなどを開催し、待ち望んでいた多くの島民が鑑賞することができた。

また、新たな取組として、動画配信サービスを導入し、ユーチューブにより鑑賞できる場の提供は、島内外の視聴者はもちろん、出演者にとっても励みとなり得るもので、文化芸術活動の活性化が期待できる。

開館から20年以上が経過し、舞台機構等については、令和2年度から年次的に計画を立て、修繕・更新が行われているので継続して欲しい。

#### (6) 文化財の保護活用

本町には、国指定・県指定・町指定の文化財として種別では天然記念物・名勝・建造物・有形民族文化財・民族資料・史跡・芸能等が多くあり、その案内板や史跡の説明文も掲示してあり知名町のPRにも役立っている。

知名町古墓調査検討委員会を開催し、「新城花窪ニヤート墓」、「屋子母セージマ古墳跡」、「屋者琉球式墳墓」、「アーニマガヤトゥール墓」等を「沖永良部島のトゥール墓群」として和泊町と共同で国指定に向けて進めているが、ロードマップに従い、着実な進捗を図るようにして欲しい。

さらに、国指定の住吉貝塚の活用について、整備・活用委員会で十分な論議の上、地域にふさわしい活用方法を検討して欲しい。

九本柱の高倉の茅葺屋根の葺き替えを、住吉高倉保存会と協力して実施し、葺き替え工程を動画に記録・保存された。また、上平川の大蛇踊りの頭部、胴体を全て更新、作業工程の記録・保存したことは、今後の保存活動に有益である。同時に、地域遺産の掘り起こしや史跡巡り体験活動等を文化財保護審議会と連携しながら、町内の有形文化財のPR及び観光と絡めた活用策を探ることも大切なことである。各集落の伝統芸能などの無形民俗文化財の保存、伝承についても保存会をバックアップして推進して欲しい。

#### (7) スポーツ・レクリエーションの推進

町民体育大会は中止となったが、大島地区大会、地区駅伝、町内、島内駅伝は開催された。スポーツ少年団も各競技が開催され、大島地区交歓大会では軟式野球で知名町がブロック優勝するなど、町民が心身共に健康であるためのスポーツ・レクリエーションの機会が徐々に戻りつつあることは大変意義深い。

スポーツ庁の新規補助事業である「幼児期からの運動習慣形成プロジェクト」を導入し、運動遊びの楽しさを教え、指導者への講習会を開催したので、今後も民間事業者と連携して、自主事業としても継続して欲しい。

子どもが減少している中で、スポーツ少年団のチーム編成や練習に工夫が必要と思われる。

## 2 公民館関係について

### (1) 公民館講座の充実

公民館講座は、講師の高齢化による講座数の減少に伴い、総受講生も 276 人と大幅な減少になったことは残念である。その中であっても「歌って若返り」「絵画教室」「しまむにサロン」など好評な講座もある。講師の確保や、多様化する町民のニーズ調査を実施するなどの対応が必要であると思う。

多くの受講生が自発的に学習し、その学習の成果を発表し、充実感を享受できることはすばらしいことであり、生涯学習フェスティバルで、公民館講座の発表の場があったことは良かった。

白百合大学の受講生の高齢化、講師の確保等については、何らかの対策が必要と考える。

### (2) 自治公民館長研修会の充実

温暖化の影響により、災害の頻度と深刻化が懸念される中で、自治公民館は字運営に必要な集会などの各種行事の場のみならず、避難所としての役割も大きくなっている。実際の避難所運営の状況を研修会で共通理解することは、今後の避難所の円滑な運営に不可欠だと思われる。区長として地域に根ざした字運営及び行政と連携した避難所運営が出来るよう、更に研修の充実を図る必要がある。

また、字史の編さんに取り組んでいる字もあるが、中央公民館の協力を得ながら他の字も字史編さんに取り組むことを期待したい。

### (3) 短歌コンクールの実施

毎年多数の応募があり、小・中・高生の応募者が例年多いのは、各学校の取り組みの成果だと思われる。一般の応募は、関心のある人だけに留まっているように思われる。

前年度より 250 首ほど減少しているので、広報の方法や募集期間の再考等を通して、地女連や老人会、白百合大学等の組織に働きかけ、団体活動の一環としての短歌づくり等を推進する必要がある。

### (4) 町民作品展示会の開催

生涯学習フェスティバルでの出品・展示だけで終わるのではなく、年間を通じて中央公民館の展示コーナー等で展示して欲しい。期間毎に作品を入れ替えメリハリのある展示コーナーにするとともに、周知の徹底を図り、活用を促進していく必要がある。

また、展示替えがあった時には、防災行政無線などを使って広く広報して欲しい。

### (5) コミュニティづくり推進協議会の開催

令和 4 年度重点実践事項は「花いっぱい運動の推進と、きゅら島づくりのため、ゴミの減量・資源化」と決定された。

依然として、特に農道での空きカンのポイ捨てが多く見受けられるので、徹底し

て運動を進めていってもらいたい。

「申し合わせ事項」の浸透のためには、町当局の広報は勿論のこと、推進協議会に参加している各種団体の代表等が団体会員に説明し、理解させる事が肝要ではないかと思う。特に字区長は、総会や常会等で字民に説明して実践状況を把握させる必要があると思う。さらには、推進会員や官公庁職員は、祝日の国旗掲揚・美化活動・持参金等の実践を率先垂範して浸透を広げていく必要がある。

#### (6) 成人式の開催

民法改正により、18歳を成人としているが、従来通り20歳を対象として「二十歳のつどい」として開催され、若者の節目をお祝いできたことは良かったと思う。新たに二十歳を迎える参加者が、実行委員会を組織して式を開催しているので、今後もこの流れを維持して欲しい。

#### (7) 弓削政己寄贈文献史料の整理

約一万点にのぼる弓削政己氏の寄贈文献史料及び新たな蔵書100箱は、奄美諸島及び沖永良部島史を研究する上で、貴重な史料である。弓削氏の寄贈の目的、「知名町を奄美諸島史研究の拠点にしてほしい」という遺言を達成するために、整理事業の人的、組織的体制を早急に確立して欲しい。

#### (8) 町誌編さん事業の推進

昭和57年に町誌初版の刊行から約40年が経過している。令和8年の第二版刊行に向け検討委員を立ち上げ、基本方針や内容について多くの議論を重ね、町長答申を行ったことで、今後の事業推進の弾みとなる。今後は、編さん室整備と人員配置、そして答申に沿った具体的作業に着手されたい。

#### (9) 施設整備

老朽化により、本町の公民館講座の拠点施設及び歴史資料拠点施設として、継続使用が危ぶまれる状況にある。新庁舎建設に伴い、公民館機能をあしびの郷・ちなに移すことを検討する必要がある。

### 3 図書館関係について

#### (1) 図書館運営の充実

図書の貸出冊数49,693冊、町民一人当たり9冊は、前年度から19%の上昇であるが、令和4年度に導入した移動図書館車（えらぶつくカー）の効果が出た。蔵書数も56,968冊（うち児童蔵書21,253冊）町民一人当たり9冊と充実した図書館経営がなされている。新型コロナの影響で図書館の利用制限等もあった中で、貸出業務は継続し、貸出冊数の制限を無くするなど、利用者目線での運営がなされている。

#### (2) 移動図書館車（えらぶつくカー）の活用

令和4年度に導入した移動図書館車は、町内小中学校と一時預かり所「そら・SORA」に運行し、利用者2,020人、貸出冊数4,899冊と実績を残した。認定こども園への運行要望にも応えるべく検討をして欲しい。

### (3) 図書館まっりの充実

体験などを通して、本好きな子どもを育てる取り組みは大変良いことである。ただし、4年度は、他のイベントと重複したため、来場者が少なかったようだが、日程を検討して欲しい。

### (4) ブックスタートの充実

6か月の幼児・母親を対象に「ブックスタートパック」を配付して、読み聞かせ方法の指導、ベビーマッサージ、指遊びを通して親子に本に親しんでもらう取り組みは大変素晴らしいので、今後もますます参加者が増える工夫をして欲しい。また、配布率を100%にする努力をして欲しい。

### (5) おはなしの時間の充実

毎月2回その月のテーマにあった絵本・紙芝居・エプロンシアター等を実施して、本好きな子どもを育てる取組は素晴らしいので今後も継続して欲しい。そら・SORAと図書館での開催だが、図書館での参加者が増えるような、企画や工夫をして欲しい。

### (6) その他

## [ 総 評 ]

令和4年度については、教育委員会生涯学習課が担当している社会教育関係・公民館関係・図書館関係の各分野について、1年間の事業実施内容とその自己評価及び成果と反省点・課題等について、生涯学習課長、公民館長兼図書館長から具体的に説明を受け評価を行った。

新型コロナウイルスの影響が依然として収まらない中、いくつかのイベントが中止、延期、規模縮小などを余儀なくされたが、多くの町民が渴望していた文化芸術事業や青少年育成事業等について、検討・工夫をし開催できた事業もあり、生きがいと潤いを感じていただき、一定の成果を上げていることは評価したい。

約40年振りに始動した町誌編さん事業への着手、検討委員会の立ち上げ、町長答申と大きな一歩を踏み出したことも評価したい。

今回の評価及び成果と反省点・課題等を踏まえて、知名町の社会教育行政全般の更なる発展を目指すとともに、残されている課題への対応が計画的に推進されることを期待し、意見とする。